日本水道新聞 2015(平成27年)6月4日(木)

第5136号　（昭和29年2月9日 第三種郵便物認可）

# 先端膜工学研究拠点棟が竣工

## 神戸大　国内最大・唯一の施設に

神戸大学大学院工学研究科は5月27日、同大百年記念館で先端膜工学研究拠点棟の竣工式典を行い、関係者約150人が出席した。同大が先端融合研究として位置づけている10プロジェクトの一つ「先端膜工学研究」の拠点として同大六甲台第2キャンパスに建設したもので、国内初、最大にして唯一の膜工学の研究拠点となる。

鉄筋コンクリート造り、地上6階建てで、建築面積は約1260平方㍍、延床面積は約6121平方㍍。平成19年に設立された「先端膜工学センター」と、同センター研究推進コンソーシアム「先端膜工学研究推進機構」の拠点ともなり、水処理膜を中心に、膜応用研究の関連学科の実験室も入る。

ＦＯ（正浸透膜）の実験装置を見学する学長ら

拠点棟前でテープカット

式典では、冨山明男研究科長が「先端膜工学センターは、わが国の大学で唯一、分離膜を独自に製作できる技術を有しており、基礎研究から応用研究まで行える十分なポテンシャルがある」と研究拠点棟を紹介した。

武田廣学長は「膜の先端研究により、イノベーションのみならずグローバル化を視野に入れた世界的研究拠点を形成し、神戸大学、ひいては日本を先導する核としての役割を期待する」と述べた。さらに「厳しい財政状況の中で、これだけ立派な建物ができたのは希有なこと。それだけにここでの研究により、建設に投資した資金を〝倍返し〟してほしい」とユーモアを込めてあいさつした。

冨山研究科長

武田学長

文部科学省大臣官房の山下恭範文教施設企画部計画課企画官の祝辞に続き、松山秀人同大大学院工学研究科教授（先端膜工学センター長・先端膜工学研究推進機構長）が先端膜の概要と研究拠点棟の概要を説明。式典後、研究拠点棟の前で武田学長、松山教授らがテープカットして、国内最大の大型製膜装置などを見学した。